

団体名	所在地	事業名	事業概要
じのん英会話教室	宜野湾市	学習支援事業	ひとり親世帯や多子世帯、またはコロナ禍で一時的困窮に陥っている世帯が増えている。そうした中、貧困により学ぶ機会が狭められている子ども達に放課後の居場所を提供し、学習支援、食支援を通して学力の向上と健全な心の成長を支援する。英会話の学習支援に特化するの、子ども達が世界の共通語と言われている英語を習得することで進路の選択肢が増えるからである。視覚・聴覚・体感覚を使った学習方法で「話せる英語」を目標にする。英会話を習得することで、インターネットを駆使し、言葉の壁を乗り越えての情報収集がより容易にでき、将来の夢の実現の可能性もひろがる。島嶼である沖縄にいなながらも異文化に触れることができ、向上心も生まれる。英会話習得の重要性と必要性は、私自身約4年間の米国生活でネイティブスピーカーの英会話を学び、その経験があったからこそ、フィリピンのマニラにある乳児院・孤児院で2週間のボランティア活動ができ、帰国後は約10年間国際養子縁組の通訳ボランティアとして社会貢献ができたことからも言える。支援をしていく中で、英会話の習得によって基礎学力も向上し、希望の学校へ進学できた子どもや、自らが将来の夢を具体化し、前向きになった子どももいる。自己肯定感が生まれ、他人とのコミュニケーションがスムーズにとれるようになった、学習以外での変化がみられる子どももいる。学習支援の基本は継続が要であり、そのためには人的、物的、資金的にも安定した体制作りをし、子どもとの信頼関係が保てるように、週3回の学習支援と週5回の食支援を目指す。
一般社団法人みやび企画	那覇市	マツシマ子ども支援事業	沖縄県では、生活困窮者（こどもの貧困）が大きな問題となっている。単身家庭や共働きが多い家庭において子ども達は朝ごはんを食べずに登校したり、放課後は学童に入らず、家庭で過ごす子が多い。特に長期休みなど、単身家庭の子ども達は食事の確保が難しい。そのような家庭も増えているという現状があるので、社会において弱者である子ども達が大きく影響を受けていることから、食事支援（お弁当の配布や行事食やおやつ提供）学習支援（宿題や課題への取り組み・個別に学びの積み直し）等を積極的に行っていきたい。松島校区ではこのような食事支援や学習支援を行っている団体が少ない為、地域への周知もまだ行き届いていない。週5回の食事支援(や学習支援を行うことで、居場所活動を周知していきたい。居場所集って食べるだけでなく、お弁当やおやつ配布などを行うことで通いやすい雰囲気づくりを行っていく。子ども達が気軽に友だちを誘って、居場所に来るという機会を持ってもらう為に、自治会の掲示板やホームページで団体の様子を掲載する。このような活動を行うことで、最低限の食事の確保や長期休みでも食事の確保が出来る為、こどもや保護者にとっても安心して過ごせる場が提供できると思う。食事支援だけではなく、日頃の宿題や課題を行う学習支援も行っていきたい。学校を離れてからの学習時間の確保は家庭では難しく、特に低学年の子ども達は誰か大人や他の人がいる場所の方が安心して、取り組めると思うので居場所を利用して宿題を終えるという形を作っていきたい。この形を定着させるために放課後に過ごす場所づくりに力を注ぎたい。
子どもの居場所アップ	那覇市	子どもの食と学習支援	コロナ禍や物価・燃料費高騰の影響を受けて困難を抱えた子育て世帯、経済状況や家庭環境の影響を受けやすい子どもを対象に子ども食堂を毎週5日開催し、子どもの食の支援を通しあらゆる形態の栄養不良を解消し栄養状態の改善を実現する。貧困層や状況の変化を受けやすい子どもたちがフードパントリーを通して、安全で栄養のある食料を一年を通して安定確保が得られるようにする。居場所を通して、経済的リスクに対する健康的な生活、福祉を推進する。環境や経済状況を受けやすい子どもたち誰もが受けられる公平で質の高い教育を提供し、すべての子どもたちが読み書き能力と基本的な計算能力を身につけ学習習慣、人と関わる力、学習の機会を促進する。学習支援を通して貧困から抜け出す支援をする。地域の子は地域で育て、地域が支え合い子どもの成長を見守ることができるよう子どもの居場所を開催しているなか、読み書きができず不登校になっている子と出会い学習支援を開催する。居場所を通して、同年代の子どもと関わることで
ケンケン広場	那覇市	こどもの居場所事業	学童保育指導員や大学生の時から大阪市西成区や北区で野宿生活者の炊き出しや安否確認、衣服提供、福祉相談などをした経験、こども分野では、児童養護施設での実習後の学習ボランティア、イベントでのボランティアを生かし、地域にあった安心安全な居場所を作り、開いている日はいつでも気軽に入れるようにする。学校生活や家庭生活での嫌なことを気軽に話せる環境にし、問題があれば小学校や地域の社会資源等と協力をし、問題解決に努めていく。 健康に育てるように色々な遊びを体験し学べるように、色々なカードゲーム（レシピ、私の世界の見方、ワードスナイパー、文字びったん、キャットチョコレート、ワードバスケット、ボブジテンなど）やボードゲーム（人生ゲーム、動物将棋、おぼけキャッチなど）、工作により男子女子問わず誰でも楽しめるような居場所にする。遊びながらも語彙力や想像力などを増やすことができる。またけん玉（日本けん玉協会の普及員資格有、2級指導員ライセンス取得予定、2段、GLOKENのけん玉先生取得）や筒けん（長野県上田市発祥）を用いて、技を楽しみながら、集中力をあげ、やる気や自信を高められるようにする。三線は、民謡や古典音楽を約10年学び、Zoomでも無料の三線教室を開いているが、同じようなものをして、工工四を見て弾けるまでにする。（民謡最高賞取得） こどもたちが楽しく毎日来れるようにイベントなどを年間行事に入れていく。学習支援では、家庭学習の指導をし、苦手科目が少しでも減らせるようにする。

ファミリーリカバリーセンター沖繩	南城市	子どもの庭	<p>子どもの未来に貢献するために、学習支援や生活習慣のサポート、キャリア形成、保護者支援、食事の提供を通じて、貧困や教育格差などの社会課題にとりくんでいく。学習支援をはじめ、日常的な良い生活習慣を体験し、仲間と出会い共に活動ができる居場所づくり、子どもの将来の自立に向けたきめ細やかで包括的な支援を行うことで、「貧困の連鎖」や「教育の格差」といった社会課題に取り組んでいく。具体的には、(1)基本的な学習支援：家庭学習の習慣づけ、学び直し等、個々の状況に応じた学習支援をおこなう。子どもたちが自主的に勉強するための習慣を身につける支援をおこなう。(2)基本的な生活習慣：子どもたちが将来的に社会で自立するための必要な基盤づくり、規律的な生活を身につけるための支援や多様な人々との交流を通じた社会的ルールや日常生活の中でのマナーを取得するための支援をおこなう。(3)キャリア形成等支援：地域の人や企業との交流を通じて、社会貢献の意識を高め、自己実現やキャリア形成に繋がる体験を提供する。また、各種ボランティアへの参加等を通じて将来の進路を模索する手助けを行う。(4)保護者支援：保護者が子育てに関する不安や悩みを解消することができるように保護者が気軽に相談できる窓口を設置し、子育てサロンなどの地域コミュニティを形成することで保護者が子育てに対する知識や情報を共有することができるようにする。ママカフェなどの開催を通して「子どもの居場所」と「保護者の居場所」として機能する場を設置していく。(5)食支援：子どもたちが健康的な食生活を送るために、栄養バランスのとれた食事の提供や食育プログラムの実施をおこなう。また家庭環境が複雑で食事を共にすることが難しい子どもたちには食事や温かな団らんの場を提供する。</p>
子どもの居場所こぼんち	那覇市	子どもの居場所運営事業2023	<ul style="list-style-type: none"> ・会員制度と管理システムを導入することで、家庭状況を把握し、食事支援や食材配付などの個別支援に対応できる環境を作る。 ・ひとり親世帯：那覇母子会と連携し、対象世帯と積極的に交流する。必要に応じて子どもは居場所で会食し、保護者の分の弁当を持ち帰らせるなどして、養育負担の軽減を図る。 ・孤食児童：共働きで保護者の帰宅が遅いなど、ひとりで過ごす時間が長い子に対して、保護者の同意を得た上で18時以降の利用も可能とする。その際の帰宅については、保護者のお迎えやスタッフの見送りなど安全に配慮し柔軟に対応する。 ・団地世帯：当地域は複数の団地が立地しており、低所得や障がい者など支援が必要な家庭が多いことから積極的に支援していきたい。 ・SSW繋がり：近隣校のSSWと連携し、支援対象児童の見守り、関わり方の模索を図る（食事、宅食、遊び、体験活動など）。
まくとぅーこころの支援	うるま市	子ども支え合い育成プロジェクト	<p>うるま市石川地区を中心に新たなる活動拠点を設け、地域の子ども支援グループや地域団体、関係機関との定期的な情報交換と相互協力も行き、こころの支援を行える場の提供をします。（この事業は石川地区にとりとても重要な事業となります。）</p> <p>①地域の子どもハウスを築きます。（子ども達はすべて無料です。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日夕方からの学習支援と食事支援を週4回以上の開催を目指します。 ・土曜、日曜（週1回4回）など子ども達が共に集まり、レクリエーションや食事会（お弁当も含む）、お楽しみ会（ミニゲーム大会・小運動会・クリスマス会、こどもの日、ハロインなど）なども開催、時には親子交流会や、親同士の交流会も開催します。 ・子ども料理教室の開催も、子ども達自らが自立できるための開催。（簡単な料理が自分でも作れる） <p>②子ども達の体験や経験の場の提供（年2回の場の提供を行います。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境や防災を学び、そして海を楽しむなどの子ども達の楽しみも行います、また成果を発表する場も設けます。 <p>学習支援の場（ミニ図書館を含む、小中高生対象のクラス分けを行い週4回以上の学習支援の場を提供します。）</p> <p>夕食支援の場を提供します（学習支援後に、場合にはお弁当持ち帰りも）。</p> <p>土日などのイベントやお楽しみ会、などと共にお弁当などの配布も行い、子どもの場、たまには大人の場の提供を行います。</p> <p>大人も共に集まれるおしゃべりの場（土日など、ゆんたくの場を提供します。まーさんな料理もたまには提供、子ども達と親との交流会なども開催します。）</p> <p>夏休み子ども食堂＋学習支援を7月20日～8月末ごろまでの間（このころには地域での広報も充実していきます。）</p> <p>平日土日で週5回以上の居場所を目指します。</p> <p>当団体では防災教育も重要視しており、居場所での福祉と防災を組み合わせた福祉防災教育も取り入れ親子防災、防災研修なども取り入れた居場所支援もおこないます。</p>
しまっ子HOME	うるま市	島の子ども居場所作り事業	<p>放課後に子どもたちが通える居場所を平安座島の公民館で週1日～5日開催します。様々な理由で多忙な保護者に代わり、当居場所で学習支援・食事提供・入浴・歯みがきまで行い、家に帰宅後は親子のコミュニケーションの時間に充てられるようサポートします。</p> <p>平日の学習支援に加え体験学習として島外へ出て子ども最大の可能性である“何故”に向き合って少しでも学習意欲に繋がる活動も行います。日頃あまり関わりを持っていない子ども達に携わるきっかけとして体験学習を活用し地域の子ども達に関わりやすい環境を提供していきます。島嶼地域ならではの課題として学校終了後は各島に帰宅し同学年で遊べる機会が少ない子ども達のため、月に1度学年別交流日を設け、同学年の友達とコミュニケーションを取れる機会を作ります。</p> <p>子ども達から第二の家のような存在として認知されるような関係性を育めるよう、多種多様なスタッフを集め個性心理学も活用しながら一人ひとりの個性に合わせた向き合い方を行います。幸い島には経験豊富な高齢者も多く、地域住民との連携も取りやすいため、地域の食堂や公民館・学童クラブや民生委員の方も共に協力し、子ども達が安心して生活できる環境・また子育てのしやすい環境を継続的に確立していきます。</p>

みつばちの家	那覇市	特定非営利活動法人 みつばちの家	<p>現在、ひとり親世帯に対してのサポートとして、食事(弁当)の提供や食糧支援の活動を行っています。活動を始めて3年目になりますが、活動開始して3週目にコロナの緊急事態宣言が発令され、居場所活動ができなくなったので、今は箱を持たずにお弁当の提供のみを行っている状況です。今年からは状況も落ち着き、居場所活動としても展開できそうなので、新たに箱を持ち、そこで食事を提供しながら学習支援もしていきたいと考えています。まずは居場所活動ができるような箱を探し、そこで5月～9月の5か月間は今までと同じように週1回お弁当(状況次第では食事の提供)を行い、その間に学習支援と食事提供の回数を増やすための準備をし、10月以降は学習支援も含めた居場所活動を展開して行く所存です。</p> <p>また、今回の事業補助金の対象外の事ではありますが、それと並行して、お母さんたちから生活状況をヒアリングし、今の生活から抜け出すためのスキルアップや情報提供もしながら、生活の改善も提案できる組織作りを目指していきたいと思っています。行政でできる経済的や物質的な支援と、みつばちの家でできる人としての生き方考え方の支援、地域に根差した活動のそれぞれ良いところを生かしながら、独自ではなく集合体としての展開を目指し、今回の助成金を有効に使っていこうと考えています。</p>
阿波根放課後寺子屋	糸満市	阿波根放課後寺子屋	<p>経済的格差や家庭環境のちがいがから、健全な人間形成や勉学といった教育全般に格差が出てきていたところへ、感染症流行により子ども全般をとりまく環境が一変した。実際に教育の場からの声もあり、危機感から自分のこどもに集中するために学校をやめる先生もいると聞く。また地域社会の活動の希薄化も課題になっている。そこで、こどもたちへ安全で安心して成長できる学習支援の場をつくることで、大人の見守るなかで、生徒同士の交流の機会をふやし、学校以外の、ルールやマナーを守りながら、自由にのびのびとすごせる環境での育成に取り組み、また、親や先生以外の大人との関わりを持たせることで社会性を学ばせ、健全な育成、成長の支援をおこなう。狭い地域だけでなく、周辺地域以外からも生徒を受け入れて、年齢、学年で区切らずに全体で学ぶことにより、より広い年齢層や地域のなかでつながりを持ち、広い社会の一因としての自覚と行動力を持たせる。ひとりひとりが成長して大人になったときに、より輝いて活躍できる人材を多く作ることで、地域社会活動の活性化にもつなげる。人間力と幸福感をもって社会に出ていくことで、社会貢献も頑張ってもらい、よりサステナブルで発展する社会を形成に寄与する。</p>
レアーズ	読谷村	こどもの居場所	<p>誰でも気軽に来れる場所に。昔は多くあった地域の商店のようなイメージ。ただお話しに来てゆっくりするだけでもいい。「誰かと繋がる場所」になれば。地域に開かれた場所によって多くの人が集まる。そして多くのアイデアが生まれ、仲間と活動へと繋がる。活動することで多くの人動く。動くことで考える。この循環で人々の困っている事や課題が見えてくる。支援が必要であれば、必要な機関につなぐ。午前中の居場所（不登校や子育て支援センター等）を探す親子の相談もあります。このスペースだけでなく、私たちの今ある資源、畑等も使用し午前中の活動も拡大していきたい。また、こども達の「やりたい」をお手伝いする「挑戦する場所」にもできたらと思っています。こども達を中心に活動することにより地域も元気になる。この一年半の活動の中で体感しています。こども達が企画運営した「こどもまつり」では小中高校生が関わり、学校、自治会、地域、行政等が協力してくださいました。今まではなかった繋がりが生まれ、応援していただきました。これからは今新たに見えてきた課題にも少しずつ取り組んでいきたいと考えています。（リタイア世代・高齢者の孤立、活動への協力要請等）</p>
タコライ斯拉バーズ	那覇市	生活困窮に陥っている家庭の支援事業	<p>沖縄県の相対的貧困世帯は総世帯数の29.9%と全国ワースト1であり、コロナ禍や物価高騰などにより子どもの貧困・孤立問題が顕著になる中、これらの課題を包括的にサポートできる環境を整備することが喫緊の課題と考えられます。</p> <p>弊団体は、毎週土曜日には那覇市社会福祉協議会子どもと地域をつなぐサポートセンター系の支援を受けながら子どもの居場所を運営しています。また平日は株式会社I a bが経営する「ランゲージラボ泉崎児童クラブ」が開所されており、子ども達に対して外国語に触れるようネイティブスピーカーの先生が確保されている等学習環境を整備しています。</p> <p>また弊団体代表は開南小学校のPTA会長、令和5年度には那覇市PTA連合会役員員の推薦を受けています。</p> <p>そこで、これまでの経験、ノウハウを活かして、那覇市本庁ブロック各小学校校区内に居住する経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子ども及び若者の支援として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食糧支援の拡充 2 学習支援の拡充 3 体験を通した学習の拡充 4 行き渋り児童の受け入れの充実を図ります。

ユイマール塾	那覇市	子どもと若者の育成支援事業	<p>ユイマール塾を実施している松川地域は、家庭環境経済格差が著しい地域で教育的配慮が低いエリアとして、ユイマール塾をスタートした。</p> <p>ユイマール塾で指導員をしながらSSWとして活動し、子どもたちやその世帯に関わってきた。</p> <p>現在では、那覇のエリアにとどまらず他市町村(西原・浦添・南風原・八重瀬町など)から利用する子どももいる。</p> <p>そのため、親に送迎をお願いをしているができない家庭には送迎するフォローも行っている。</p> <p>利用する子どもの多くが多子・父子・母子世帯で、利用する子どもだけが食事をするのではなく、家族みんなで同じ食事を食べられるように(家にいる未就学児も食べられるよう⇒みまもり)家族へも食事提供を行っている。夏休みなどの長期の休みには、家庭学習の実地状況の確認をしながら食料品の配達を行っている。</p> <p>関わる子どもたちの中に困難を抱えた子どももいて、家庭環境の中でネグレクトリスクの高い子どもたちの見守りしながら、孤独感、孤立感を抱えないように居場所を提供していくことを継続。学校・児童相談所・行政等と連携しながら個別支援も行っていく(ひとり親支援を重視してきた。その中で子育て支援・生活支援を行ってきた)</p> <p>家庭環境のリスクを背負い、そこに育つ子どもたち(特に中高校生)の、居場所(学習支援)を強化している。学びなおしにも力を入れている。</p> <p>本来であれば、幼児教育から積み重ねられてできるものが、経済格差や様々な事情があり家庭学習環境が整わないがために、学習についていけない子どもたちがいる。</p> <p>その子どもたちが、理解しやすいように学習指導員を増やし、子2名に対し、1名の指導者を付け、それぞれの子どもたちに合った掘り下げた学習支援を行っている。</p>
呼吸子ども無料食堂	北谷町	子どもたちに食事や生活用品や居場所を提供する活動	<p>貧困家庭の生活の中で物資や食材を支援することで少しはゆとりある生活や気持ちができると考えや心の豊かさが大人になる今の子どもたちの成長には欠かせないと思います。</p> <p>親以外に他人の大人が接することで子どもたちの未来の良い大人の理想に繋がりに犯罪にも巻き込まれない環境で成長していくという思いで活動に取り組んでいます。</p>

※ 事業概要は申請団体の申請書からそのまま転記